

川内原発さよう再稼働

九電、新基準初「ゼロ」2年で終了

九州電力の川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市、89万キロワット）が、11日に再稼働する。同日午前10時半、原子炉内で核分裂を抑えている制御棒を引き抜き、原子炉を起動する。新規基準の下で初の再稼働で、約2年ぶりに「原発ゼロ」が終わる。

▼3面 政権・電力、絡み合う思惑、29面
 Ⅱ「再稼働を問う」避難バス 善意頼み

九電は10日午前11時10分から、制御棒が正常に作動するかを確かめる検査を始め、午後3時に終了。川内1号機は4年以上も停止しているが、再稼働前に必要な検査は大きなトラブルな

く終えた。一方、原発や福岡市の九電本店周辺では、脱原発を訴える市民らが反対の声を上げた。九電は11日午前10時半に原子炉を起動し、半日後の午後11時ごろ、核分裂反応

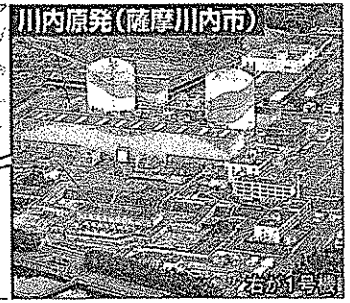
11年5月	定期検査で停止
13年7月	新規基準が再稼働のため九州電力が申請
14年9月	原子力規制委員会が、新規基準を満たすことを決定した「審査書」を決定
15年3月	規制委が使用前検査を開始
7月上旬	燃料を搬入
7月下旬	重大事故を想定した訓練を実施
8月11日	原子炉を起動して再稼働
14日	発電・送電を開始
9月上旬	営業運転に移行

が連続的に起こる「臨界」となる見通し。14日に発電と送電を始めて、9月上旬に営業運転に移る。2011年3月の東日本大震災で、東京電力福島第一原発が事故を起こし、そ

の後国内の全原発は停止。電力不足で関西電力大飯原発3、4号機（福井県）が

12年7月に一時的に再稼働したが、13年9月に停止した。その後の「原発ゼロ」は、川内1号機の再稼働で終わることになる。

福島第一原発事故を受けて、地震や津波の想定を厳しくした新規基準が13年7月に施行された。九電は施行と同時に川内原発の審査を申請し、14年9月に同基準に適合していると、全



川内原発(薩摩川内市) 鹿児島県 鹿兒島市

旬の再稼働をめざしている。他の電力会社では、関西電力高浜原発3、4号機（福井県）と、四国電力伊方原発3号機（愛媛県）も新基準を満たすと認められ、再稼働への手続きが進む。ただ、高浜原発については、福井地裁が4月、再稼働を禁じる仮処分を出し、再稼働できるかは不透明だ。（長崎潤一郎）

国の原発で初めて原子力規制委員会に認められた。規制委は今年3月、安全設備などを確認する使用前検査を開始。7月下旬には、九電による重大事故を想定した訓練も行われた。新規基準で初めての再稼働となるため、九電は規制委への対応に手間取るなどして手続きは遅れたが、審査を申請してから2年以上をへて再稼働する。九電は川内2号機も10月中